

目的 衣服設計をCADを使用して目的とする衣服の具体的製作法を図面等で明示する時、その衣服を構成する各基準線にはどれだけのゆとりが加えられてデザインがされなくてはならないか、即ち目的とする衣服に必要なとするゆとりの数値化が必要である。静立位での婦人衣服基本形態(Basic Fitting Shell)の構成各基準線のゆとりについては既に報告をしているが、動く生体である人間の日常の衣服と静立位の衣服と同じゆとり量で設計することは出来ないことは容易に推察可能である。着衣基体である人体体表面上に衣服構成の各基準点と基準線を設定して日常動作を行い、これら各基準線の変化量の測定を行った。本研究目的の第一段階の結果が得られたのでこれを報告する。

方法 被験者は女性8名(平均年齢21.8才)。実験動作としての日常動作は動作の主動部を上部, 胸部, 下肢でまとめて36動作を選んだ。人体体表面上に構成基準線として設定計測した項目は26である。計測器具はマルケン氏人体計測器およびスケールメジャーである。

結果 計測項目で静立位と動作時の間で有意差の認められた主な項目は、主動作が上部で変化量がプラスの項目は外袖丈(14.7~20.9%)後脇丈(8.4~22.2%)前脇丈(14.7~39.3%)後幅(13~34.6%)、マイナスの変化量項目は背肩幅, 前肩幅, 前幅, 右肩幅。主動作が胸部でプラスの変化量項目は、後脇丈(18.2~33.5%)前脇丈(16~46.3%)後幅(10.3~38.1%)、マイナスの項目は右肩幅, 後頸付根線。下肢が主動作でプラスの変化量項目は、膝関節囲(25~140%)後幅(17.6~25.1%)背丈(9.2~15.1%)後肩傾斜(8.3%)、マイナスの項目は前肩幅, 前幅, 前中央丈, 前肩傾斜, 背肩幅であった。